



なきごえ



1988

2

大阪市
天王寺動物園協会

梅井純子



みなさんは、動物と魔法の再会をしたことがありますか。

地球上には膨大な種類の動物たちが住んでいます。犬や猫のような身近な動物は、ごく自然にそれらの形

や名前を覚えてしまいます。また身近ではないけれど、動物の代表選手のライオン、きりん、ぞうなども、あたりまえのように知らず知らずの間に覚えてしまっています。このような出会いから覚えてしまった動物たちの第一印象がどんなだったか聞かれても答えようがありません。これとは反対に、初めての出会いがとても強烈なため、その動物の第一印象が、いつまでも忘れられないものがあります。これからお話しする私が魔法の再会をした動物は、後者にあたるものです。

その動物との最初の出会いは、私がものごころついて間もない頃、家族そろって天王寺動物園へ行った時のことです。その檻は、ほかの動物たちとは離れた所に、ひとつポツンと建っていました。私と姉たちは、その檻の前に立つなり、釘づけにされてしまいました。世の中に、こんなにかわいい動物がいたのかと目を見張るばかりでした。檻の中には、たぬきぐらいの大きさでベッチャンコのとってもかわいい顔をした動物が一匹、木の枝によじのぼって、こちらを見ていました。このとき、字が読めなかった私は勿論、なぜか誰もこの動物の名前を覚えていませんでしたので、「あのベッチャンコの顔のコ、かわかったね。」と話しかけただけでした。私は気になって動物絵本を捜してみました。しかし、そんな動物の影も形もありませんでした。

その動物がいったい何だったのか謎に埋れてしまったまま何年もたちました。東京の上野動物園に、中国からはじめてパンダが送られてくるという昭和45年頃、私は、ある新聞の記事を見て、はっとしました。それは「天王寺動物園にも昔、パンダがいた」という見出しで動物の写真が載っていたのです。私をはっとさせたのは、まさにその動物の写真であり、これがあの謎のベッチャンコの顔のコだったからです。それは、レッサーパンダという名の動物でジャイアントパンダの仲間にあたるものでした。長年の謎が解け、私はうれしくて小踊りしながら、早速、家族にその記事を見せて話しましたが、反応はもう一つでした。それでも私は一人で喜びに浸っていました。しかし、記事をよく読んでいるうちに、たいへんなショックを受けました。それは、このレッサーパンダは、心ない人のため棒でつかれて死んでしまったということです。

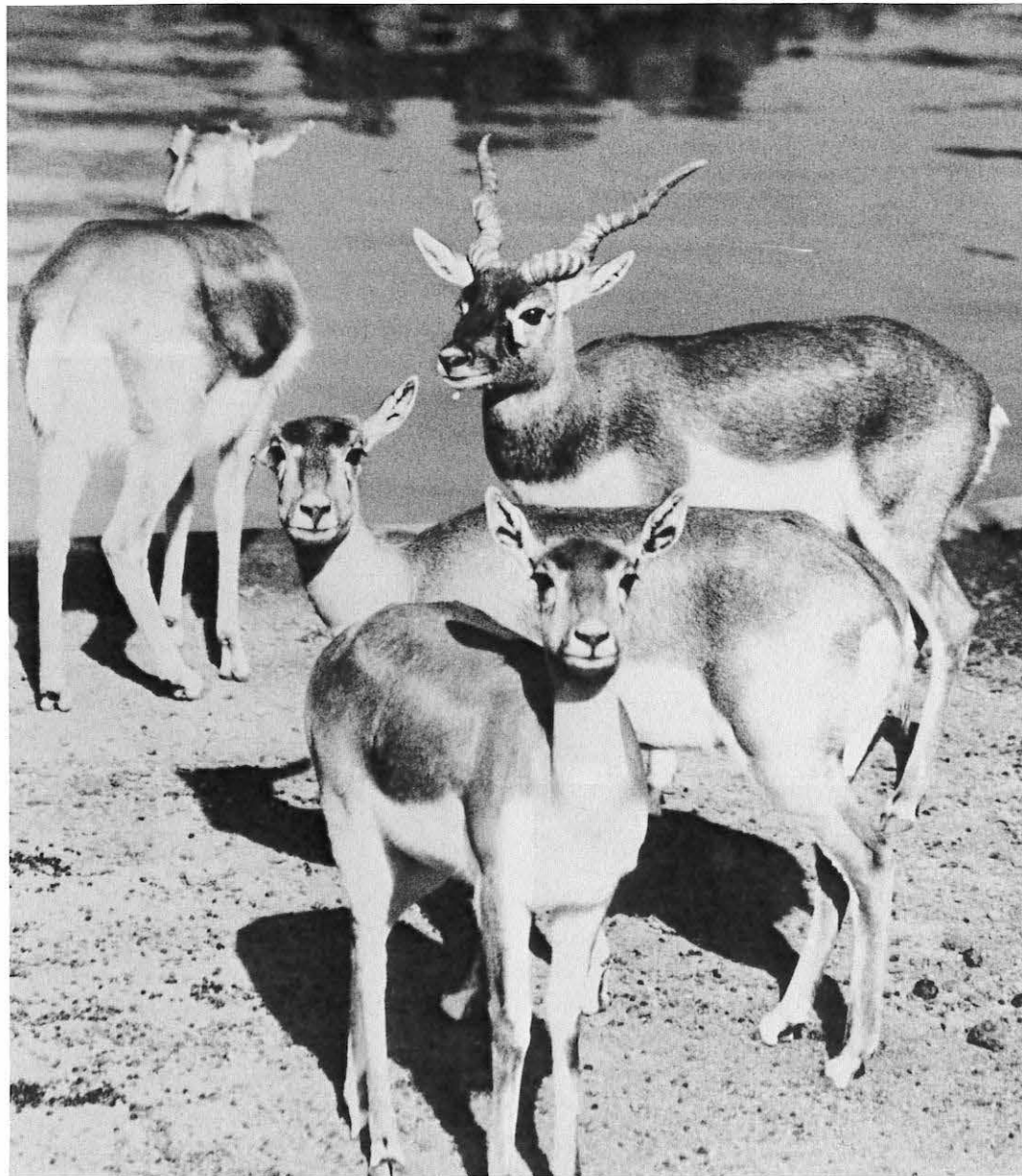
私があこの謎の解けた、ベッチャンコの顔のコと魔法の再会をしたのは、それから更に月日がたった昭和57年のことでした。久しぶりに天王寺動物園に行ってみました。北園のほうを、カメラを持って歩いていました。あのコはもう何年も前に死んでしまったんだから会える訳がないのです。でも会えたのです。もちろん生きた姿ではなく、また幽霊でもなく、それは、はく製となって展示されていたのです。私は、なつかしきで胸がいっぱいになりました。生きていた頃より美貌は落ちていましたが、むかし初めて会ったときの感動が蘇り、そのなつかしきといったらまるで、小さいときに薄汚れるまで大切にしていたおもちゃを大人になって古いおもちゃ箱からみつけだしたような気分でした。そのおもちゃがもし紛失してしまっていて頭の中で想像するか夢の中でしか会えなくなっているのに現実に目の前に急に現れたとしたら、これはまるで魔法です。レッサーパンダとの再会も、私にとっては魔法だったのです。

(イラストレーター)

なきごえ2月号もくじ

動物と私 2
“ブラックバックのニューリーダー” 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
太陽光線と動物 6-7
キジ舎の繁殖苦労話 8-9
獣医室から ④5 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明
“トビ” (Milvus migians)
ワシやタカの仲間ではもっとも身近な鳥であるトビは日本以外でも広く世界に分布しています。肉食ですが生きているものだけでなく、死体でもよく食べます。この広い食性が分布の広さに関係しているのでしょうか。
(撮影：長瀬 健二郎)



“ブラックバックのニューリーダー”

私、富山市ファミリーパークから昨年12月に入園したブラックバックのオスです。いまだ弱冠2才ながら将来の血液更新にそなえ、導入されました。メス8頭をひきつれて、カモシカ園で皆様のご来園をお待ちしています。

(撮影：新出 悦央)

動物園グラフ

“ジャイアントバードケージ「鳥の楽園」は今”

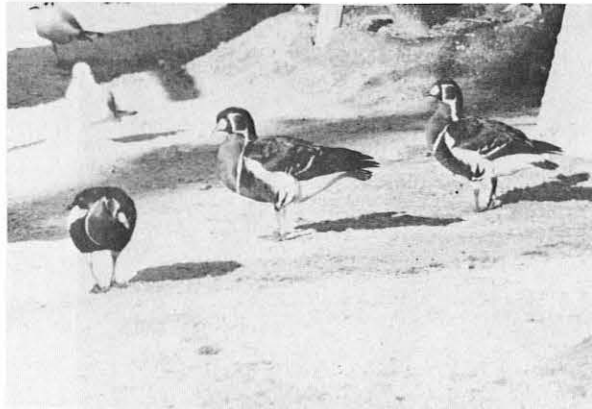
昨年8月に65種300羽の鳥たちを擁してオープンした鳥の楽園。冬になり、多くのカモの仲間ではオスが繁殖羽をもつようになり、体色が大変彩やかになりました。今回はそんなカモたちを主体に、生き生きとした鳥の姿をとらえてみました。

(撮影：森本 委利)

なきごえ24(2), 1988



もぐりの天オヒメハジロ



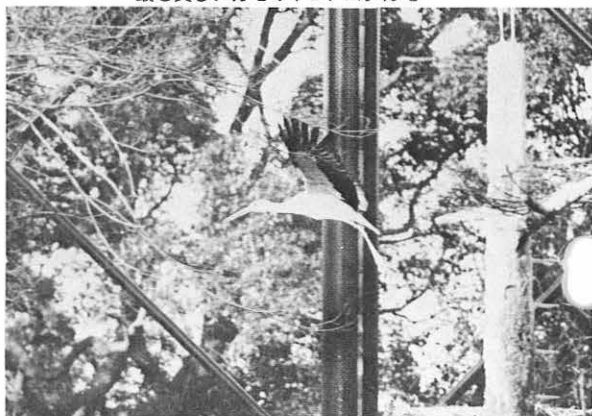
まるでヨロイでもまとっているようなアオガン



最も美しいカモの1つ、ヨシガモ



白と黒のコントラストがあざやかなホンケワタガモ

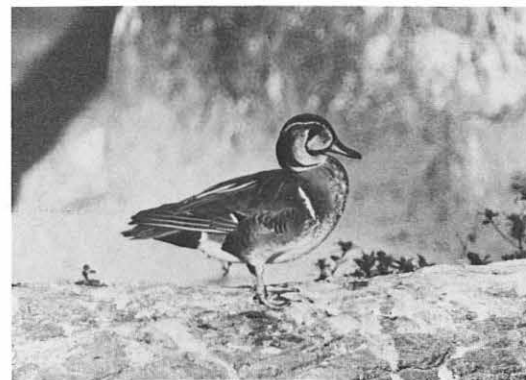


巣材を運ぶシュバシコウ

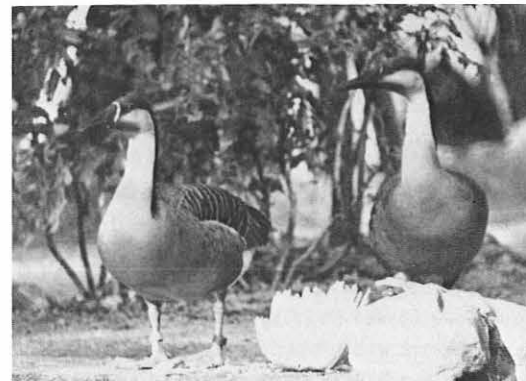
なきごえ24(2), 1988



まるで天使の白衣を着たようなミコアイサ



巴(ともえ)状の紋が独特のトモエガモ



最近入園したサカツラガン夫婦



仲良くエサを食べるタンチョウ(左)とカワウ(右) むこうはホオジロカンムリヅル



ほほの三か月の白斑が目立つ、キタホオジロガモのオス 手前はメス



羽干しをするインドトキコウ

12月の動物園日記

- 12/6. ホッキョクグマの子供は隔離された産室で順調に育っているようです。
- 12/8. 富山ファミリーパークよりブラックバックのオス1頭の寄贈を受けました。コウノトリ舎に巣作り用の台を取り付けました。昨年6月生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。
- 12/9. キジ類にワクチン接種を行いました。
- 12/10. 近畿地区動物園獣医師勉強会を当園で行ないました。

- 12/11. キーウイ飼育展示室用の腐葉土および他の夜行性動物舎各室用の枯葉採取のため、箕面へ出張しました。
- 12/12. コンドルのオスがメスに攻撃され元気がないため隔離して治療をはじめました。
- 12/13. 第32回動物のお話とスライドの会「動物園、この一年をふりかえって」を開催しました。ボランティアの夜の動物園見学会が行なわれました。
- 12/14. チュウゴクオオカミ(黒変種)が今年始めて交尾しました。(12月21日まで)
- 12/16. ホッキョクグマの子供が生後30日となりました。元気に育っているようです。

- 12/16. マレーグマの出産準備のため、寝室の窓をベニヤ板でおおいました。
- 12/17. 上野動物園よりカワウ1番の寄贈を受けました。オオバンを1羽保護しました。
- 12/18. ベニヘラサギが右足に体重をかけて歩けないため、入院させ治療をはじめました。マレーグマの出産準備のため、寝室にワラを置くことにしました。
- 12/19. キリン舎の運動場に碎石を入れました。
- 12/20. ゾウ舎運動場砂場の土砂交換をしました。12月は毎日曜日、ボランティアによるス

- ポットガイドを行なっています。
- 12/21. コウノトリのオスが巣材をくわえているのを確認しました。
- 12/23. オスとの交換でカリフォルニアアシカのメス1頭(一昨年生まれ)が浜松市動物園より来園しました。タスマニアデビルのメス“ミミ”の皮下腫瘍の摘出手術を行ないました。
- 12/26. ホッキョクグマの子供が生後40日となり順調に成育しているようです。
- 12/28. タヌキを1頭保護しました。

— 北極熊が黒熊に写る — 中川輝男

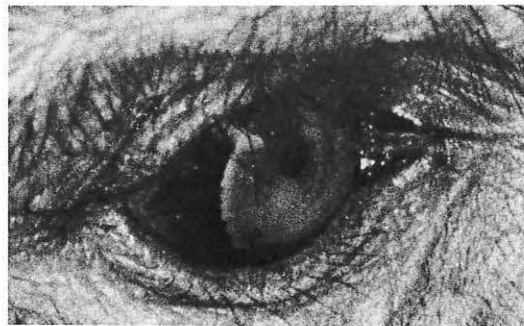
太陽の光を分光すると紫から赤までの色々な色に分かれ、これらはヒトの目に見える光なので可視光といい、紫より短い電磁波を紫外線、赤よりも長い電磁波を赤外線(熱線)といい、ヒトの目には見えない光なので不可視光線といわれています。可視光と不可視光をどの波長から分けるかは研究目的や又各国の基準でも少し違いがありますが、280ナノメートルよりも短い紫外線は地球を取り巻くオゾン層で吸収され、現在では地表までは放射されていないはず。この内赤外線は物質の温度を上昇させる力があり、電気ストーブ等の暖房器具は人工的に赤外線を作り利用したものです。一方紫外線は殺菌作用があり生物に有害な微生物を殺すのに役立ちますが、物の表面だけで内部までの殺菌効果はありません。その他、体の中でビタミンDを合成し骨を作る手助けをしたり、赤血球白血球の量を増すのに役立ちます。この様にヒトや動物に必要な光ですが、その一方、もし紫外線の量が今よりも1パーセント増えればヒトの皮膚癌の発生が2パーセント〜4パーセントも増加し、農作物も大きな被害を受けるだろうといわれています。このようにある意味では危険な紫外線の中で、生物はどのような仕組みで現在まで生存できたのか、まずヒトの場合を考えてみます。

日本の紫外線量の一番多い時期は6月頃で、特に高い山や海の空気中に水蒸気やゴミの少ない晴天の正午頃です。この時期の日光を急に浴びるとすぐに肌が赤くなり、次に皮下で色素が増え黒くなります。ヒトの表皮は1.5〜2mm位しかありませんが、この黒い色素で有害な紫外線を吸収し、皮下組織への浸透を防ぎ体を守ろうとしますが完全とはいえません。紫外線の少ない北欧の人達は髪や皮膚の色素が少く、強い放射のある南の人達は濃い色素をもっていますが、熱線(赤外線)で焼けた訳ではありません。人間の長い歴史の間に少しづつ、その土地に住みやすいように体ができたのです。

ところで夏の強い太陽光を一日中浴びる動物は居ません。適当に日陰を見つけて休むのは、暑さを避けると同時に必要以上の紫外線から体を守る意味もあるでしょう。動物の冬毛と夏毛とを比べてみますと夏毛の方に濃い色のものが多く、保護色のためでもあるのですが、夏毛は量が少いで濃い毛色で有害な光を吸収し皮膚に当りにくくしていいのではないかと思います。海洋牧場の浅い海で魚を養殖すると、自然に育ったものよりも黒っぽい魚になるものが多いと聞きます。日光を浴びる量が多過ぎるのが原因なら、海面で短波光線をコントロール出来る網でも張れば、美しいピンクの鯛が育つかも知れません。

哺乳類や魚類等の生物は太陽に向った背中部分

の色素が濃く、下側の胸や腹部の部分は白っぽいものが多く、日光の内の必要な光だけを取り入れるのに都合よく出来ています。二足歩行も出来るニホンザルの夏毛の時期は胸部から腹部にかけて皮膚がはっきりと見え、直接皮膚に日光が当たります。個体差もありますがそこに青い斑が地図様にあり、ヒトの生後間もない時にお尻や腰部にある蒙古人斑と良く似ています。(ヒトの場合は数年で消えるのが多い)紫外線をカットするなら黒い斑の方が適当と思えますが、育ち盛りのサルにとってこの青い斑は必要な紫外線だけを体内に取り入れ、有害になる程の量は透さないのです。又ニホンザルの目は虹彩の廻りに僅かに白い線があるだけで、ヒトや犬の様に白目の

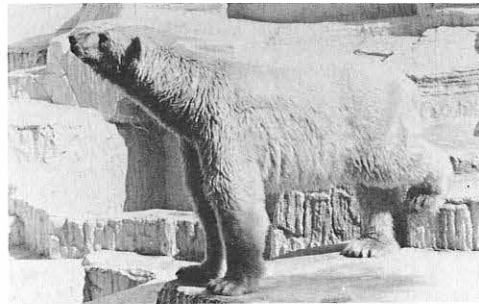


(普通撮影) ニホンザルの目は白い部分がありません。山の強い光から目を守るのに適した目です。

部分が見えません。山の強い有害光から目を守る、自然に備わったサングラスなのかも知れません。顔や尻の表皮は紫外線を殆どカットしています。濃淡の二色の色素を持った動物は生きて行くのに特に大切な部分が濃い色素の毛のものが多く、ジャイアントパンダは唇、鼻、目の廻り、耳、四肢、胸部、肛門附近が黒く、マレーバクは胸部から上と四肢が黒です。又鳥類の中にも目の周辺からの反射を嫌って、目を保護していると思えないほど不自然な色使いのものがいくらか見つかります。

北極熊の体毛はやや黄色味はありますが、白熊といわれる通り白っぽい毛で、氷上生活の動物にとって適切な保護色であるには違いありませんが、アザラシを常食にするために獲物に近づけるカムフラージュの意味が強いのかも知れません。空気の澄んだ北極では、太陽の出ている限り日光の全照射量中の有害光のしめる割合は大きく、生きるのに必要以上の紫外線があるはず。草原の様に放射を受けた植物が紫外線を殆ど吸収し、又木陰もある場所と違い、氷の紫外線吸収は氷に相当な汚れが無い限り望めません。十分に皮下脂肪がありそこに適応生存を続けて来たとはいいいながら、白に近い体毛で日照のすべての時間を空と氷からの有害反射光からどの様

にして身を守って来たかと思議に思っていました。しかし紫外線撮影の結果、大変おもしろい答が出てきました。薄い黄色の色素があるので多少の吸収はあると予想はしていましたが、あの白っぽい体毛は短い有害光の殆どをカットして、必要以上の紫外線が身に当るのをコントロールしていたのです。白熊は紫外線に対しては黒熊だったのです。これで謎は解けたと同時に、又しても自然界の偉大さに痺れさえます。では同じ処に棲む北極キツネはどうなのかと、北極熊、北極キツネ、ホワイトタイガー、

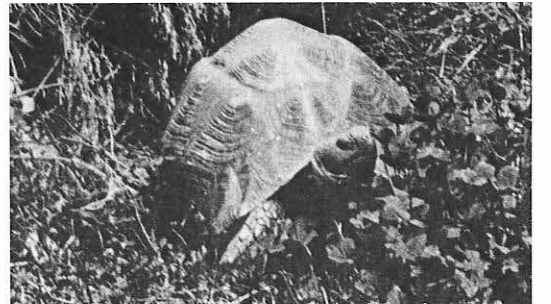
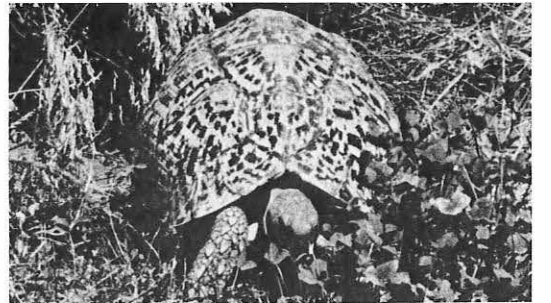


上は普通撮影。紫外線撮影(下)をみると白の北極熊が黒熊に変身。

犬の毛を普通、紫外線、蛍光の3通りで撮りました。普通撮影では四種類とも余り違いはありません。紫外線では北極熊の吸収が大きく黒くなります。北極キツネの毛には吸収があまりありません。ホワイトタイガーの毛は4月の抜毛ですから夏になればもっと黒く写るかもしれませんし、生棲地では有害光から身を隠す場所もあるはず。問題は北極キツネですが、これは夏の強い紫外線の時期には毛色が変わり、色素の濃い夏毛になるので大丈夫と思えます。蛍光撮影では紫外線を大量に吸収した北極熊の毛は暗い中で強く光りました。もともと色素の多いゾウ、サイ、カバでも普通撮影より、紫外線撮影の方が黒く写ります。

キリン、縞ウマの色素の薄い部分は案外黒く写りません。濃い部分は紫外線を透さないのだからこれで良いのでしょうか。白いヤギ、白いシカは思った程の吸収がありません。全体が薄黒くなる程度です。

驚いたのはヒョウ紋カメの場合、紋がなくなり、別



ヒョウモンガメ(上)普通撮影、(下)紫外線撮影

のカメかと思える位に変わりました。しかし甲羅の表面で紫外線は完全にはカットされていない様です。甲羅を作るのに必要な量を透しているのではないのでしょうか?

いずれの動物も量の違いはありますが、紫外線を強く反射するものは現在まで見つかりませんでした。色素が全然無ければ有害光のため生きるのが難かしいはずですから、もし居たとしても保護してやらない限り、自然界では生存期間は極めて短いと思えます。しかし鳥類は全く違った結果が出ました。白い鳥が黒っぽく写ると思ったのですが、その羽根には吸収がほとんどありません。その替り皮膚に強い蛍光がありました。(蛍光とは物質が吸収した紫外線を可視光に変え、外に放射する事で蛍光灯はこの原理を利用したもの)皮膚の蛍光は人間を除く動物にありますが、鳥の皮膚の蛍光は特に強く、有害な光を無害な可視光である二次光に変える事で害が軽減出来るのではないかと思います。この件はもっと深く調べてみる必要があります。

蛍光撮影を多くの動物で試みたいのですが、可視光に比べてこの二次光のエネルギーは弱く、暗室以外での撮影は無理なのです。

紫外線撮影については古墳から出土した土器、化石、指紋、絵画、植物、昆虫と続けて来ましたが、哺乳類、鳥類の撮影は期間も浅く謎の連続です。ここに書いた事柄も先で書き直す必要があるかもしれませんが、何か解明できるかもしれないと、天王寺動物園の御協力を得て続けています。

(紫外線写真撮影家)

§ はじめに

正月だの成人式だのと言っているうちに1月もあつという間に過ぎてしまいました。あー寒い、早く暖かくなったらいいのになんて言っている春もすぐそこに来ます。春になると動物達の繁殖シーズンの到来です。飼育係にとっても忙がしい毎日が始まります。鳥達が卵を産み始めてから慌てない様に、この時期に昨年の繁殖の様子を振り返ってみることにしましょう。

§ 自然孵化について

動物園における鳥類の繁殖には自然、つまり卵を産んだ親にそのまま卵を抱かせる方法と卵を取り上げ孵卵器に入れて孵化する方法、それに卵を産んだ個体とは別の個体(ニワトリなど)に抱かせて孵化させる方法がありますが、当園では自然孵化と孵卵器に入れる人工孵化の2つの方法をとっています。

昨年、キジ舎では3室で自然抱卵が行なわれましたが、残念ながら全て孵化には至りませんでした。

a. チリーシギダチョウ

この鳥は名前からもわかるようにキジの仲間ではありませんが、キジ舎にいるので今回は登場してもらっています。

体つきは小さいのですが、キジなどと同じ位の大きな卵を8卵産みました。表面はチョコレート色をしていて光沢のあるきれいな卵です。キジ舎の小部屋で抱卵していたのですが、10日目で巣を放棄してしまいました。原因は、私が掃除や給餌のために室内に入ったために安心して抱卵を続けられなかったのだらうと考えられます。今年は安心して抱卵が出来る様にシュルター等を増やすつもりです。

b. エボシキジ

この場合は、巣造りはきれいにしたのですが全く抱卵する様子が見られませんでした。最終卵を産み終わってから5日後に全卵を孵卵器に入れましたが、全て無精卵でした。この場合もやはり安心して抱卵できる環境でなかったのが原因だと考えられます。

c. ニジキジ

ニジキジでは、巣造り、そして抱卵と順調に進みました。産卵を始めて3日後に雄を別ケージに移しました。後は給餌の時だけ室内に入り、それ以外は外から観察するようにしました。しかし結果は全て無精卵でした。この個体の場合、一昨年の人工孵化の結果を調べた所、最初に産んだ卵よりも後で産んだ卵の方が有精卵が多いのがわかりました。今年は、



抱卵する親鳥

まず、初めのうちの卵はとり上げその後自然抱卵させてみようと考えています。

いずれにしても、自然孵化というものは、成功すれば、ヒナの愛らしい姿や子育ての様子を皆様に見ていただけるという展示効果は高いのですが、反面人工孵化と比べて、成育するヒナの数が少ない事や抱卵による親鳥の疲労がたいへん大きい事等を考慮して、自然孵化させる種類を慎重に選び、そして万全の準備をして臨んでいかなければならないと思います。

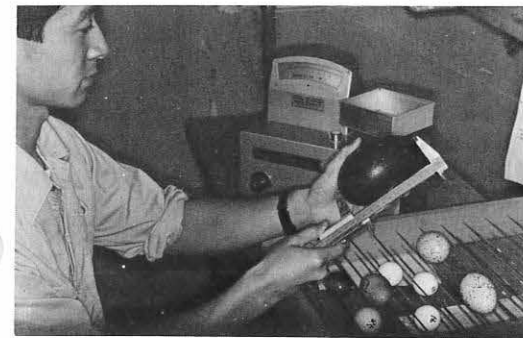
§ 人工孵化について

繁殖シーズンになると毎朝どこかのケージの隅っこ(必ず隅っこで、絶対に部屋の真中に産んだりしません。どうしてでしょう?)に卵を発見します。見つけるとまず親に気付かれぬように、そっと卵に日付を入れます。そして大体2~3日に1卵ずつといった調子で卵を産むので4卵ぐらい貯まってくると1卵そして2日後にまた1卵とこっそり持ち出して孵卵器へ入れます。親鳥には見つからないのですが時々速足で来ている小学生達に見つかるので、「わー、おっちゃん卵を盗んどる。」とか「なんで、持って行くんやろ。」とか言われたりします。私は実は恥づかしがり屋なので、ついその場をゴソゴソと逃げ出してしまうのですが、実はこれにも理由があるのです。キジの仲間のほとんどが子育てはメスの仕事なのです。卵を産んで、それを暖めそして孵化した子供を育てる。そんな偉大な仕事をメスはたった1羽でひっそりと行ないます。ところが動物園では、同じ部屋の中にオスがいてウロウロしてるし飼育係も入ってくるし、観覧者が前を通って行くし、もともと臆病なキジのメスにとっては安心して子育てに専念できないのです。だから卵を抱こうとする種類が少ないのです。そして例え卵を抱いたとしてもオスが邪魔をしに行きます。この時期オスは発情期といってある種の興奮状態になっているので、メスにとっては交尾時以外は、いじめっこのような存在です。ですから抱卵を始めたメスにずっと卵を抱かせて子育てをさせようと思うのならオスを別の部屋に移さねばなりません。ところが当園のような限られたスペースしかない動物園では、別々に飼育する場所がないのです。そこで毎年可能な限り2~3種はオスを分け自然抱卵をさせているのですが、残りのキジ達にはあきらめてもらっています。ところが鳥達は、こっちの事情など知らずにどんどん卵を産みますから、それを私がこっそりと持ち出して食べているわけではありません。ちゃんと孵卵器に入れて頼りない代理の母親になっているのです。こういう理由ですから、もし小学校の先生がこの文章をお読みになったら子供達に説明してあげてください。

では昨年の人工孵化の様子をお話ししましょう。

1. 測定: 集められた卵の重さ・長さ・短径を測ります。例えばニホンキジは卵重26.5g、長さ46.55mm、短径33.80mmで、マクジャクだと128g、73.50mm、55.75mmです。特に卵重は孵卵器に入れた後も孵化する日(又は孵化予定日)まで毎日測定します。卵というのは生きていますから、中で成長が進むにつれ重さは減少してきます。また無精卵つまり中でヒ

ナが成長していない卵も乾燥していくため重さは減少します。この2者の卵重の減少率に差があるかどうかを確かめるために測定を続けたのですが、結果をみるとベニジュケイでは、有精卵で6~6.5%、無精卵では5~9%、チリーシギダチョウでは、どちらも7~8%とほとんど差はありませんでした。これは測定値がg単位であったため細かいチェックができなかったせいであると考え、今年からはもう少し細かい測定を行なっていきたいと考えています。



卵の測定

2. 入卵: 卵に番号を書いて孵卵器に入れます。昨年は合計142卵を孵卵器に入れました。

孵卵器内の温度は37.6℃、湿度は70%でした。1で書いた卵重の減少率ですが、他園の記録をみると9~10%あるいはそれ以上というのがみられます。これは湿度とも関係があると思うので今年は湿度を少し下げて60%程にしようと考えています。



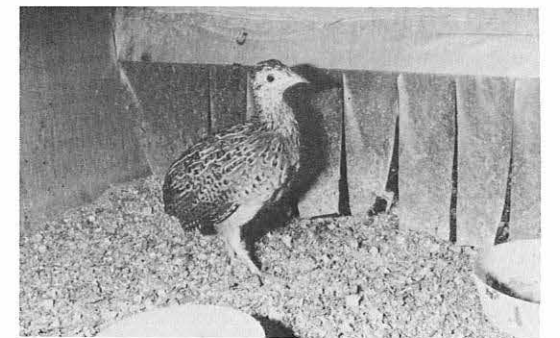
孵卵器と卵

3. 放冷: 自然孵化でメスが卵を抱いている場合でも一日中抱き続けているわけではありません。当園で観察された例では大体朝夕一時間ずつ、メスはエサを食べるために巣を離れます。この間、卵は暖めてくれる親はいないので、当然冷たくなります。温度が下がるとその間の成長はストップします。でもヒナにとってはそれで良いのです。むしろ、ずっと暖められていると体はどんどん成長してしまっ、限られたスペースしかない卵の中で最後に成長する脚が十分に大きくなれなかったり、曲がってしまったりする原因になると考えられています。ですから卵を冷やすというのも大切な事なのです。

放冷は1日1回1時間行ないましたが、ベニジュケイとマクジャクの2種で5月末~7月にかけて脚弱が目立ちました。シギダチョウやコクジャクでは

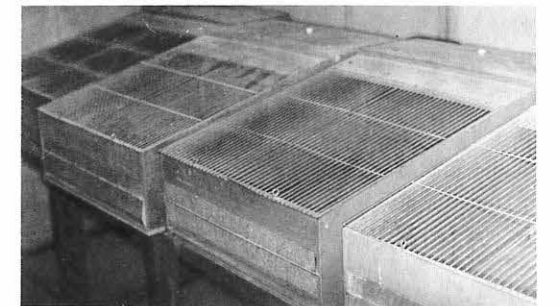
そういう事はなかったため、本年はこの2種の放冷時間と方法について考えてみたいと思います。

4. 孵化そして餌付け: 卵にヒビが入って、耳をあてるとゴツゴツという音がしています。この音を聞いた時の喜びといったことはありません。やがてヒナが姿を現わします。次の日から青菜やチックフードを食べ始めます。パクパクと食べてくれればよいのですが、そうすんなりとはいきません。昨年4月に孵



チリーシギダチョウのヒナ

化したチリーシギダチョウはたいへん臆病でピンセットで青菜を目の前にもって行っても逃げまわって食べてくれず、3日後には死亡してしまいました。しかし6月に3羽孵化した時には上野動物園の方に教えていただきミールワームを使って無事餌付けする事ができました。



育すう箱

5. 屋外へ: 孵化したヒナは室内で飼っていますが、体も大きくなってくるとそろそろ屋外へ出します。この時期が難しく、ハイイロコクジャクの場合には20~30日齢の4羽の群を5月下旬に屋外に出したのですが20日齢の個体が3日後に死亡してしまいました。また16日齢のマクジャクを30日齢のベニジュケイと屋外で同居させましたが翌日に死亡しました。本年度は屋外へ出す場合には、風よけ、ひよこ電球の設置、同居する鳥の種類等を充分考えていきたいと思っています。

§ おわりに

以上のように昨年度は反省すべき点ばかりが目につき恥づかしい限りです。しかし、今年は昨年の失敗を生かして一羽でも多くの繁殖の為に頑張らねば!!と考えています。

(飼育課: 早川 篤)

動物への投薬法

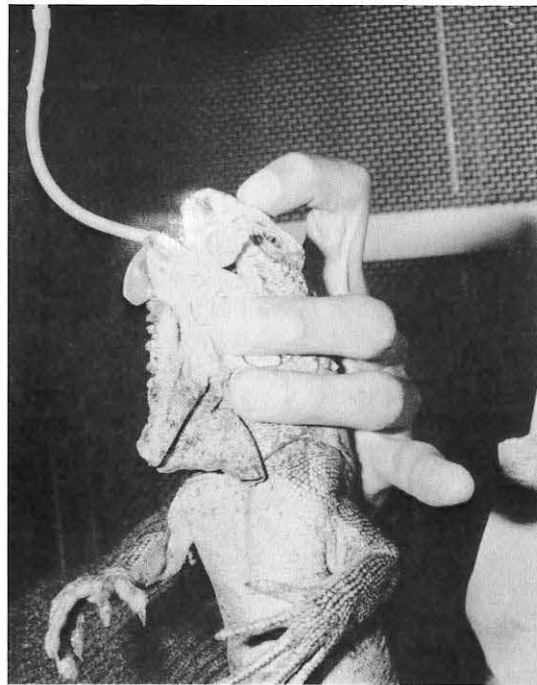
「良薬は口に苦し」といいますが、薬はやはり苦いものが多いようです。人にとって苦いものは程度の差こそあれ動物にとっても苦いもの、人間なら病気を治すためなら少しぐらい苦さは我慢して飲むのですが、動物の場合なかなかそういうわけにはいきません。我々獣医師にとって薬を使う前に味見を試みるのも大切な仕事のひとつです。「これくらいの苦さなら飲んでくれるだろう」といった調子です。

薬のなかでもとりわけ抗生物質には苦いものが多いようです。このため人用の抗生物質にはカプセルが使われているものが多いのかも知れません。そこで小児用に苦味を消すために甘くしたシロップ剤の抗生物質をよく使うのですが、この場合抗生物質の含有量が少ないため大きな動物では大量に投与しなければならず、利用できる動物に限られます。

さて、実際に薬を与える方法ですが、イヌやネコでは錠剤を直接口のなかにほり込んで飲ませることもできますが、野生動物ではなかなかそういうわけにもいかず、餌に混ぜたり、餌の塊の中に隠したりして与えます。

草食動物は薬を餌に混ぜ与えても問題なく食べてくれるようです。これは草食動物は味覚があまり発達していないのか、肉食動物より食べる餌の量が多いので餌に混ぜてもそれほど苦くないのかもしれませんが。

しかし、同じ草食動物でもゾウの場合は少々事情が異なるようです。ゾウは知能が高いことで知られており、ちょっとやそつでは薬を混ぜた餌を食べしてくれません。牙が折れ化膿したときのことです。リングの中に薬を入れ食べさせようとしたのですが、その能力はすごいものでどうしてわかるのか、何も入れていないリングと一っしょに与えた薬入りのリングを見事に区別し口に入れることもなく残してし



カテーテルを使ったグリーンイグアナへの栄養剤の投与

まったのです。

また、サル類は知能が高く、味覚も発達しているのでいつも投薬には苦労させられます。なめてみてほとんど無味無臭と思われる薬でも、人より味覚が優れているのなかなか投薬できないことがよくあります。また知能が高いためなかなか同じ手にはかかりません。好物のパナナの中に入れてたり、蜂蜜に混ぜパンに付けたりして与えるのですが、なかなか

続けては食べてくれません。器用に薬入りの蜂蜜をこすり取ってパンだけを食べてしまいます。

ハツカネズミをまる呑みするワライカワセミの投薬法も少し変わっています。ハツカネズミに薬をふりかける訳にもいきません。こんな場合、薬を水に溶かしたものを液体の薬を注射器でハツカネズミの体に注射し投薬することもあります。

ヘビやトカゲなど生きた動物を餌にしている爬虫類の投薬も大変です。ワライカワセミの場合と同じように餌の動物に薬を注射する方法もとれないことはないのですが、餌の動物が死んでしまえばヘビ類は食べま

せんのであまり投薬はできません。最後の手段として、どうしても薬を混ぜた餌を食べない時には、カテーテルという細い管を直接胃まで入れ薬を流し込むという方法があります。先日来園したグリーンイグアナは環境が変わったためか来園以来全く餌を食べないため数日おきにカテーテルで栄養剤を与えています。しかし、この方法は毎回動物を捕まえないといけないため、動物に与える影響も大きくあまりやりたくない方法のひとつです。今日も動物園では動物と人間の化かし合いが続きます。あの手この手でなんとか薬を与え病気を治してやらなければなりません。

(飼育課：神原安昭)

動物園ニュース

§ 新着動物

毎年冬は動物を移動させる季節ですが、昨年も12月に入って多くの動物が来園しました。

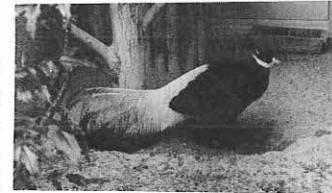
○ブラックバック

12月8日にブラックバックのオスが富山ファミリーパークから来園しました。当園には3頭のオスがいたのですが、最近繁殖成績がおもわしくないため当園生まれの2頭を含むこれら3頭を搬出し、新たな血統を導入するため今回の来園が富山ファミリーパークのご好意で実現しました。

来園したオスは昭和60年11月5日に富山ファミリーパークで生まれたもので、ようやく成獣のオスの特徴である黒化が始まった若い個体です。(3ページ写真参照)

○ミミキジ

12月9日、神戸市立王子動物園のご好意で、ミミキジのメスが来園しました。昨年の11月11日にメスが死亡し、オス1羽になっていましたので、繁殖期を前にして待望のメスの来園です。来園したメスは王子動物園で一昨年ふ化したもので、今年の産卵は充分期待できそうです。



ミミキジ



カワウ

○カワウ

12月17日東京都恩賜上野動物園からカワウ一番が来園しました。カワウは南園のバードゲージ「鳥の楽園」で1羽が飼育されているだけでしたので、上野動物園に依頼し寄贈していただいたものです。来園したのは繁殖ペアということですので、今春の繁殖が楽しみです。

○ホオカザリヅルとサカツラガン

12月21日ホオカザリヅルのオス1羽とサカツラガン一番が東京都多摩動物公園から来園しました。

当園ではホオカザリヅルはメス1羽を飼育していただけですので、ツル舎の改造終了に合わせて繁殖を目的としてお借りしたものです。来園したオスは昨年ふ化した若い個体ですので、繁殖はまだ先になるでしょうが、野生では絶滅が心配されているツルですので、ぜひ繁殖させたいものです。

サカツラガンは、アジアに分布するガンですが、当園には昭和59年7月以来のお目見えです。

○カリフォルニアアシカ

12月23日、カリフォルニアアシカのメスが浜松市

現在の飼育動物数

(昭和62年12月31日現在)

哺乳類	13目	105種	437点
鳥類	20目	199種	598点
爬虫類	3目	35種	91点
合計	36目	339種	1,126点

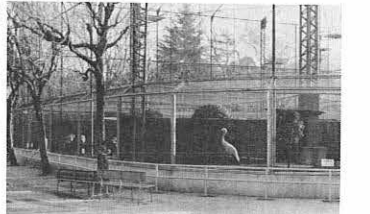


カリフォルニアアシカ

動物園から来園しました。浜松市動物園へは一昨年の12月に当園生れのオスを貸し出していました。そのオスと浜松市動物園で一昨年の6月に生まれたメスを交換する話がまとまり、メスの来園が実現しました。これで当園のカリフォルニアアシカは、オス4頭、メス9頭の大家族となり、今後も順調な繁殖が期待できそうです。

§ 新ツル舎完成

水禽放養舎をツル舎へ改造する工事が完了し、12月23日に旧ツル舎のツルたちを移動させました。



新しいツル舎には10コマの展示室があり、タンチョウ4羽、クロヅル2羽、ハゴロモヅル1羽、マナヅル2羽、ホオカザリヅル1羽、オオハゲコウ1羽、モモイロペリカン1羽を展示しました。多摩動物公園から来園したホオカザリヅルのオスも近日中にツル舎に展示する予定です。

§ 動物園の迎春

恒例のエトにちなむ動物舎のメ縄かざりを、12月21日に行ないました。今年のエトは架空の動物の竜であるため、名前にドラゴンのつくウォータードラゴン、イメージが似ているグリーンイグアナとザラクビオトカゲを展示している爬虫類舎で行ないました。



また、恒例のエトにちなむ郷土玩具展の飾り付けも完了し、12月21日に報道公開されました。京都市在住の平田嘉一氏提供による竜などエトにちなむ郷土玩具455点を1月2日から31日まで北園展示館に展示しました。

● お知らせ

動物のお話とスライドの会

2月21日(日) バードウォッチング

3月20日(日) 動物クイズ

4月17日(日) カバのお話

時間：午後1時～2時

於：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。4月までの休園日は下記のとおりです。

2月15日(月)、3月22日(火)、4月18日(月)

開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。


近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京路店1階
(京都ファミリー)

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑 が一つの本の
中にギッシリ



中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか? 動物園での世話
の仕方は? 仲間とは? など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ <既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた
昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

**いま、フィルムは
頭脳をもった。**



高画質時代をリードする
はるかに美しく
フジカラー SUPER HR

カメラの大林
桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

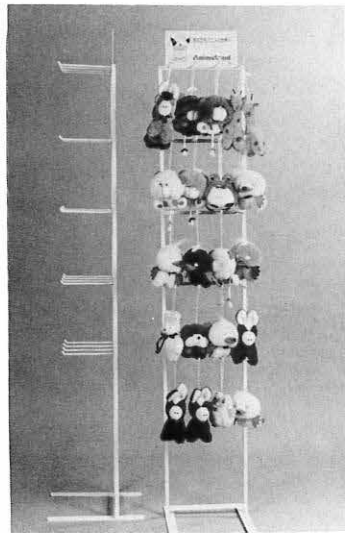
ビデオ
動物園へ行こう
の無料貸出をします。



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対 象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸 出 料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申 込 先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。

動物観察の手引に
天王寺動物園
ガイドブック
のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会
〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

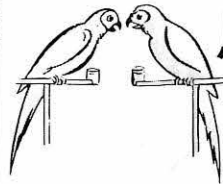


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

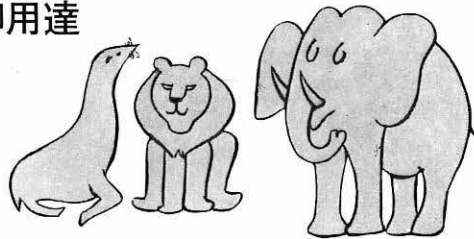
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

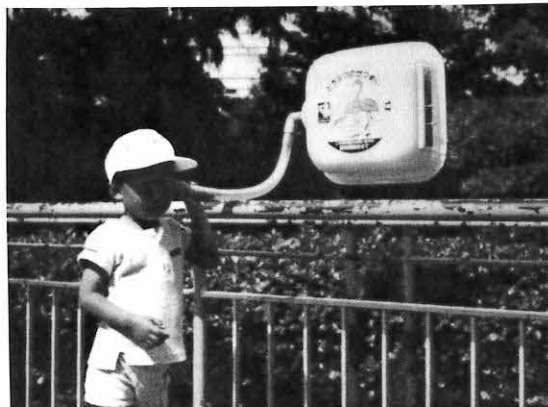


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

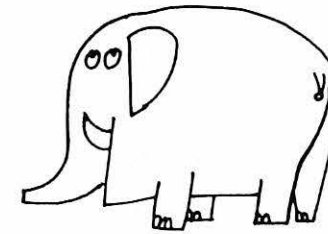
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に!... 雪印



雪印 ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年2月10日発行(毎月1回10日発行)第24巻 第2号 (通巻270号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/齊田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/森野幸司/堀 弘/大川光雄/新出悦央/土谷正道)